

2011年度 理事会議事録

日時：2011年9月9日(金) 15時00分～17時00分

場所：信州大学人文・経済学部棟6階会議室

理事：森下高治理事長，藤田主一副理事長，井上孝代，浮谷秀一，内山伊知郎，荻野七重，加藤博己，川本利恵子，桐生正幸，田中真介，田中佑子，谷口泰富，田之内厚三，玉井 寛，内藤哲雄，蜂屋 真，深澤伸幸，藤森立男，細江達郎，松浦常夫，松田浩平，向井希宏，森脇保彦，蓮花一己（以上24名）

監事：高橋良博

名誉会員：山岡 淳

オブザーバー：濱 保久大会委員長

(第79回大会委員長)

事務局：浮谷秀一(事務局長)，

佐藤恵美(事務局幹事)

1. 理事長より(森下理事長)
2. 第78回大会委員長挨拶(内藤大会委員長)
3. 報告事項

(1) 事業報告

1) 会員の異動および会費納入状況

- ・2011年9月5日現在，会員数1,192名である。
- ・2011年度会費の納入率は約70%である。

2) 各種委員会報告

①機関誌編集委員会(川本委員長)

- ・平成22年度には第36巻第1号(原著2本，短報2本，公開シンポジウム)および第36巻第2号(原著6本，短報3本)を発行した。
- ・現在第37巻第1号の発行準備中であり，原著1本，資料3本，短報2本が査読済みである。
- ・第37巻第2号には，第77回大会シンポジウムおよび優秀大会発表賞の結果を掲載する予定である。
- ・2011年4月現在査読中の論文は22本である。
- ・年間3号の機関誌発行を計画し，準備している。

②企画委員会(田之内委員長)

- ・平成22年度の活動としては，第77回大会で研

修会A, Bを開催したことと2010年11月13日に東京富士大学で公開シンポジウムを開催したことである。

- ・平成23年度は第78回大会で研修会A, Bを行う。研修会Aは大橋信夫先生，研修会Bは木村友昭先生に依頼した。
- ・2011年11月12日(土)に「まさか!の応用心理学—災害時はこうする—」を日本体育大学にて開催する予定である。この告知は，明日の大会にてチラシを配布する予定である。

③広報委員会(藤森委員長)

- ・『応用心理学のクロスロード』第2号は2010年12月に，第3号は2011年6月に発行した。
- ・第4号は2011年12月に発行する予定である。
- ④「応用心理士」認定審査委員会(玉井委員長)
 - ・2010年度後期は7名の応募があり，7名を認定した。
 - ・2011年度前期は1名の応募があり，1名を認定した。

⑤国際交流委員会(内藤委員長)

- ・国際応用心理学会(メルボルン)の特集号は，約60名による査読をしているところである。

⑥若手研究者支援委員会(蓮花委員長)

- ・明日の第78回大会の若手支援の準備はできている。昨年までは大会中の手続きを受け付けたが，今年から事前申し込みとした。しかし，まだ完全に周知されていないので，今大会ではブースを設置する予定である。来年以降は事前申し込みのみとする。

⑦学会賞選考委員会(藤田委員長)

- ・優秀大会発表賞を第77回大会から創設し，4件が受賞した。明日の懇親会で授賞式を行う。第78回大会でも優秀大会発表賞の選考を行う予定である。
- ・来年度は学会賞の選考がある。

(2) 理事長諮問機関の答申について(中間報告) (藤田副理事長)

- 1) 理事長諮問機関として「応心の更なる発展を考える会」を立ち上げ6名の委員が選考された。そこでは学会が抱える問題について議論してきたので，このことについて中間報告する。常任理事会に報告し承認され

たことも含まれている(別紙参照)。

- ①理事・常任理事の定数について: 理事定数は現行の36名を維持するが, 選挙によって選出される理事を24名から27名, 推薦による理事を12名から9名とする。また, 選挙によって選出される常任理事を15名から9名にする(常任理事会で承認され, 今年度総会に提案する)。
 - ②応心の財政を考え, 年会費の値上げを検討したが, まずは支出の見直しをすることにした。
 - ③会員名簿の紙媒体を廃止とし, マイページを立ち上げ活用していく(常任理事会で承認済)。
 - ④財政を考慮し, 『応用心理学のクロスロード』の発行を年1号にする(常任理事会で承認済)。
 - ⑤会員サービスの向上として「メールニュース」を新設し, 最新ニュースを配信していく(常任理事会で承認済)。
 - ⑥学会ホームページをリニューアルすることで対外的にアピールしていく(常任理事会で承認済)。
 - ⑦「応用心理士」の確保と質的保証として, 専門分野の活躍領域の明記, 資格取得後の研修会参加などを検討していく(検討中)。
 - ⑧「優秀大会発表賞」を第77回大会から新設し, 年次大会を活性化することを目指す(常任理事会で承認済)。
 - ⑩日本心理学会で応心企画シンポジウムを実施していくことを決め, 2011年度の大会で実施する(常任理事会承認済)。
- (3) 2010年度第77回大会報告(田中委員長)
 - ・発表件数は昨年とほぼ同じ, 大会参加者は約400名であった。自主ワークショップは8件となり, 例年より多かった。
 - ・大会論文集の閲覧ができるようにした。
 - (4) 日本心理学諸学会連合報告
(谷口担当常任理事)
 - ・2011年6月に日本心理学会諸学会連合の役員が改選され, 新体制が発足した(別紙参照)。
 - ・国資格問題について, 1資格1法案の成立を目指すこととした。国資格の名称については, 医療関係団体との協議を踏まえて「心理師(仮称)」として議論している。今後, 国など各方

面と折衝が行われていく予定である。

4. 審議事項

- (1) 2010年度決算に関する件(浮谷事務局長)
 - ・2010年度の決算書(別紙)の説明があり, 高橋監事から適正に処理されているとの会計監査報告があった。審議を経て承認された。
- (2) 2011年度予算に関する件(浮谷事務局長)
 - ・2011年度の予算案(別紙)の説明があり, 審議を経て承認された。
- (3) 会則改正に関する件(森下理事長)
 - ・日本応用心理学会会則および日本応用心理学会役員選出・選挙規程の改訂が提案された。改訂部分は以下のとおりであり, 審議を経て承認された。

[日本応用心理学会会則]

- ①第4条(会員): 「本会の会員は, 正会員, 名誉会員, 賛助会員, および学生会員とする。本会に入会しようとする者は, 正会員および名誉会員の推薦により, 所定の手続きを経て, 常任理事会の承認を得ることとする」の中に, 終身会員を挿入する。
- ②第6条(理事長・副理事長): 「2. 副理事長は理事長の指名による」を挿入する。
- ③第6条(理事・監事)の記載を, (理事・常任理事・監事)とし, 常任理事を加える。
- ④第7条(理事・監事)の規程: 「常任理事15名を選出する。」の部分に「常任理事9名を選出する。」に改訂する。さらに, 「必要があれば理事長は常任理事若干名を推薦することができる」を加える。
- ⑤付則5: 「5. 本会則は平成23年9月11日より改正施行する。」と改正する。

[日本応用心理学会 役員選出・選挙規程]

- ①第4条(理事の選出): 「理事36名のうち, 24名は会員の選挙により, 12名は選挙台帳記名者の中から常任理事会の推薦によって選出する」を, 「理事36名のうち, 27名は会員の選挙により, 9名は選挙台帳記名者の中から常任理事会の推薦によって選出する」に改訂する。
- ②付則3: 「3. 本会則は平成23年9月11日より改正施行する。」と改正する。
- (4) 名誉会員推戴に関する件(森下理事長)
 - ・前理事長である岡村一成先生を名誉会員とし

て推戴することが承認された。

- (5) 東日本大震災支援に関する件(森下理事長)
 ・日本応用心理学会東日本大震災の実践・調査教育研究活動に対する助成について、森下理事長より提案と説明があった(別紙参照)。

[助成内容]

- ・個人あるいはグループで被災地を対象に震災の被災者に対する支援活動、原発事故への支援活動、調査教育活動に取り組みられた本学会の会員に対し、助成を行う。
 - ・2011年10月31日までに提出された申請書を審査委員会で厳正なる審査を行い、3件程度を採択する。審査結果は2011年12月31日までに採否を通知し、メールニュースでも公表する。
 - ・2012年3月までに報告書を提出してもらい、機関誌などに掲載する。
 - ・予算は約30万円とする。
- (6) 2013年度第80回大会委員長(大会当番機関)に関する件(森下理事長)
- ・2013年度第80回大会は日本体育大学(藤田大会委員長)で開催されることが提案され、承認された。
5. 2012年度第79回大会委員長挨拶(濱 保久大会委員長)
- ・2012年9月22日(土)23日(日)に北星学園大学(札幌)で開催する予定である。現在、意欲的に準備を進めている。

2011年度 総会議事録

日時: 2011年9月10日(土) 11時45分~12時45分
 場所: 信州大学第4講義室

進行: 浮谷事務局長

1. 理事長挨拶(森下理事長)
2. 第78回大会委員長挨拶(内藤大会委員長)
3. 議長選出
 - ・大会委員長である内藤大会委員長が選出された。
4. 報告事項
 - (1) 事業報告
 - 1) 会員の異動および会費納入状況
 - ・2011年9月5日現在、会員数1,192名である。2011年度会費の納入率は約70%である。

2) 各種委員会報告

①機関誌編集委員会(川本委員長)

- ・平成22年度には第36巻第1号(原著2本, 短報2本, 公開シンポジウム)および第36巻第2号(原著6本, 短報3本)を発行した。
- ・現在第37巻第1号の発行準備中であり, 原著1本, 資料3本, 短報2本が査読済みである。
- ・第37巻第2号には, 第77回大会シンポジウムおよび優秀大会発表賞の結果を掲載する予定である。
- ・2011年4月現在査読中の論文は22本である。
- ・年間3号の機関誌発行を計画し, 準備している。

②企画委員会(田之内委員長)

- ・平成22年度の活動としては, 第77回大会で研修会A, Bを開催したことと2010年11月13日に東京富士大学で公開シンポジウムを開催したことである。
- ・平成23年度は第78回大会で研修会A, Bを行う。研修会Aは大橋信夫先生, 研修会Bは木村友昭先生に依頼した。
- ・2011年11月12日(土)に「まさか!の応用心理学—災害時はこうする—」を日本体育大学にて開催する予定である。この告知は, 明日の大会にてチラシを配布する予定である。

③広報委員会(藤森委員長)

- ・『応用心理学のクロスロード』第2号は2010年12月に, 第3号は2011年6月に発行した。
- ・第4号は2011年12月に発行する予定である。

④「応用心理士」認定審査委員会(玉井委員長)

- ・2010年度後期は7名の応募があり, 7名を認定した。
- ・2011年度前期は1名の応募があり, 1名を認定した。

⑤国際交流委員会(内藤委員長)

- ・国際応用心理学会(メルボルン)の特集号は, 約60名による査読をしているところである。

⑥若手研究者支援委員会(蓮花委員長)

- ・明日の第78回大会の若手支援の準備はできている。昨年までは大会中の手続きを受け付けたが, 今年から事前申し込みとした。しかし, まだ完全に周知されていないので, 今大会ではブースを設置する予定である。来年以降は

事前申し込みのみとする。

⑦学会賞選考委員会（藤田委員長）

- ・優秀大会発表賞を第77回大会から創設し、4件が受賞した。明日の懇親会で授賞式を行う。第78回大会でも優秀大会発表賞の選考を行う予定である。
- ・来年度は学会賞の選考がある。

(2) 理事長諮問機関の答申について（中間報告）
（藤田副理事長）

- 1) 理事長諮問機関として「応心の更なる発展を考える会」を立ち上げ6名の委員が選考された。そこでは学会が抱える問題について議論してきたので、このことについて中間報告する。常任理事会に報告し承認されたことも含まれている（別紙参照）。
- ①理事・常任理事の定数について：理事定数は現行の36名を維持するが、選挙によって選出される理事を24名から27名、推薦による理事を12名から9名とする。また、選挙によって選出される常任理事を15名から9名にする（常任理事会で承認され、今年度総会に提案する）。
- ②応心の財政を考え、年会費の値上げを検討したが、まずは支出の見直しをすることにした。
- ③会員名簿の紙媒体を廃止とし、マイページを立ち上げ活用していく（常任理事会で承認済）。
- ④財政を考慮し、『応用心理学のクロスロード』の発行を年1号にする（常任理事会で承認済）。
- ⑤会員サービスの向上として「メールニュース」を新設し、最新ニュースを配信していく（常任理事会で承認済）。
- ⑥学会ホームページをリニューアルすることで対外的にアピールしていく（常任理事会で承認済）。
- ⑦「応用心理士」の確保と質的保証として、専門分野の活躍領域の明記、資格取得後の研修会参加などを検討していく（検討中）。
- ⑧「優秀大会発表賞」を第77回大会から新設し、年次大会を活性化することを目指す（常任理事会で承認済）。
- ⑨日本心理学会で応心企画シンポジウムを実施していくことを決め、2011年度の大会で実施

する（常任理事会承認済）。

(3) 2010年度第77回大会報告（田中委員長）

- ・発表件数は昨年とほぼ同じ、大会参加者は約400名であった。自主ワークショップは8件となり、例年より多かった。
- ・大会論文集の閲覧ができるようにした。

(4) 日本心理学諸学会連合報告

（心理学検定を含む）

[理事会について]（谷口担当常任理事）

- ・2011年6月に日本心理学諸学会連合の役員が改選され、新体制が発足した（別紙参照）。
- ・国資格問題について、1資格1法案の成立を目指すこととした。国資格の名称については、医療関係団体との協議を踏まえて「心理師（仮称）」として議論している。今後、国など各方面と折衝が行われていく予定である。

[心理学検定について]（大坊担当常任理事）

- ・受験者が昨年に比べて500名程度増加し、年々増加傾向にある。
- ・増加理由として、インターネットで申し込みができるようになったこと、公式問題集が年度ごとに刊行されるようになったことが挙げられる。
- ・検定のシンボルマークを募集したところ20～30件集まり、今後検討していく。

5. 審議事項

(1) 2010年度決算に関する件（浮谷事務局長）

- ・2010年度の決算書（別紙）の説明があり、高橋監事から適正に処理されているとの会計監査報告があった。審議を経て承認された。

(2) 2011年度予算に関する件（浮谷事務局長）

- ・2011年度の予算案（別紙）の説明があり、審議を経て承認された。

(3) 会則改正に関する件（森下理事長）

- ・日本応用心理学会会則および日本応用心理学会役員選出・選挙規程の改訂が提案された。改訂部分は以下のとおりであり、審議を経て承認された。

[日本応用心理学会会則]

- ①第4条（会員）：「本会の会員は、正会員、名誉会員、賛助会員、および学生会員とする。本会に入会しようとする者は、正会員および名誉会員の推薦により、所定の手続きを経て、

常任理事会の承認を得ることとする」の中に、終身会員を挿入する。

- ②第6条（理事長・副理事長）：「2. 副理事長は理事長の指名による」を挿入する。
- ③第6条（理事・監事）の記載を、（理事・常任理事・監事）とし、常任理事を加える。
- ④第7条（理事・監事）の規程：「常任理事15名を選出する。」の部分「常任理事9名を選出する。」に改訂する。さらに、「必要があれば理事長は常任理事若干名を推薦することができる」を加える。
- ⑤付則5：「5. 本会則は平成23年9月11日より改正施行する。」と改正する。

[日本応用心理学会 役員選出・選挙規程]

- ①第4条（理事の選出）：「理事36名のうち、24名は会員の選挙により、12名は選挙台帳記名者の中から常任理事会の推薦によって選出する」を、「理事36名のうち、27名は会員の選挙により、9名は選挙台帳記名者の中から常任理事会の推薦によって選出する」に改訂する。
- ②付則3：「3. 本会則は平成23年9月11日より改正施行する。」と改正する。
- (4) 名誉会員推戴に関する件（森下理事長）
 - ・前理事長である岡村一成先生を名誉会員として推戴することが承認された。
- (5) 東日本大震災支援に関する件（森下理事長）
 - ・日本応用心理学会東日本大震災の実践・調査教育研究活動に対する助成について、森下理事長より提案と説明があった（別紙参照）。

[助成内容]

- ・個人あるいはグループで被災地を対象に震災の被災者に対する支援活動、原発事故への支援活動、調査教育活動に取り組まれた本学会の会員に対し、助成を行う。
- ・2011年10月31日までに提出された申請書を審査委員会で厳正なる審査を行い、3件程度を採択する。審査結果は2011年12月31日までに採否を通知し、メールニュースでも公表する。
- ・2012年3月までに報告書を提出してもらい、機関誌などに掲載する。
- ・予算は約30万円とする。
- (6) 2013年度第80回大会委員長（大会当番機関）に関する件（森下理事長）

- ・2013年度第80回大会は日本体育大学（藤田大会委員長）で開催されることが提案され、承認された。
- 5. 2012年度第79回大会委員長挨拶（濱 保久大会委員長）
 - ・2012年9月22日(土)23日(日)に北星学園大学（札幌）で開催する予定である。現在、意欲的に準備を進めている。
- 6. 議長解任
- 7. 名誉会員称号証書授与
 - ・森下理事長より、岡村一成氏（東京富士大学）を名誉会員とする称号を授与された。その後、岡村氏からお礼の挨拶があった。
- 8. 2012年度第79回大会委員長挨拶（濱 保久大会委員長）
 - ・2012年9月22日(土)23日(日)に北星学園大学（札幌）で開催される予定である。現在、意欲的に準備を進めている。

2011年度第4回常任理事会議事録

日 時：2011年11月12日(土) 11時00分～12時30分
 場 所：日本体育大学 深沢校舎5階中会議室
 出席者：森下高治理事長、藤田主一副理事長、浮谷秀一、川本利恵子、大坊郁夫、田中真介、谷口泰富、田之内厚三、内藤哲雄、藤森立男、向井希宏、蓮花一己、濱 保久（第79回大会委員長）（以上13名）
 欠席者：井上孝代、玉井 寛
 事務局：浮谷秀一（事務局長）

I. 報告事項

1. 理事長より（森下理事長）

- ・9月に開催された第78回大会（内藤哲雄大会委員長）へのお礼と、次期第79回大会の濱保久大会委員長の本会出席に対するお礼が述べられた。
- ・日本心理学会第75回（日本大学文理学部）にて本学会主催シンポジウムを開催した。
- ・本学会ホームページに関する作業を、軽部幸浩先生（駒澤大学）に広報委員になっていただきお願いした。
- ・東日本大震災研究支援助成の資金にするため、本日の公開シンポジウムでワンコイン募金を

実施する。

- ・常任理事会の会場を提供していただいた藤田先生とお手伝いの学生にお礼が述べられた。
2. 委員会報告事項
- (1) 機関誌編集委員会 (川本委員長)
- ・第37巻第1号は11月20日ごろ発送予定である。掲載内容は、原著1本、資料3本、短報2本、公開シンポジウム報告、永澤幸七先生(名誉会員)の追悼文である。
- (2) 企画委員会 (田之内委員長)
- ・本日の常任理事会終了後に公開シンポジウム「まさか！」の応用心理学—災害時はこうする—が開催される。
- (3) 広報委員会 (藤森委員長)
- ・『応用心理学のクロスロード』第4号の最終校正をしている。12月中旬に発送予定である。
- (4) 「応用心理士」認定審査委員会
(代理: 浮谷委員)
- ・2011年度後期の申請者は、現在2名である。締め切りは11月30日なので、身近な未取得者に勧めてほしい。
- (5) 国際交流委員会 (内藤委員長)
- ・英文特集号を担当している副委員長の蓮花先生から審査の経過報告があった。採択8件、不採択8件、残りは審査継続中である。年内での終了を目指している。
- (6) 若手研究者支援委員会 (蓮花委員長)
- ・審議事項で検討をお願いする。
- (7) 学会賞選考委員会 (藤田委員長)
- ・審議事項で検討をお願いする。
- (8) 選挙管理委員会 (浮谷委員長)
- ・10月31日に投票用紙を送付した。投票の締め切りは11月18日(必着)、開票は11月23日に日本体育大学会議室で行う。
3. 2011年度第78回大会報告 (内藤大会委員長)
- ・大会への参加についてお礼があった。
 - ・参加者数などの結果は集計中である。
4. 2012年度第79回大会について (濱大会委員長)
- ・会員、非会員、予約、当日にかかわらず、院生、学部生、研究生の参加費用を一律にする。
 - ・研究発表(ポスター)の時間帯は初日午後のみとする。自主ワークショップは両日に実施する。
 - ・時間帯を希望しない自主ワークショップについては、企画費・発表費を無料にする。
 - ・大会企画は、シンポジウム1件である。
 - ・研修会A(第1日目)と研修会B(第2日目)は、研究発表と別時間帯にする。
 - ・懇親会はキャンパス内で行い、予約参加の場合4,000円とする。
 - ・理事会は、前日午後2時30分に開会し、理事懇親会は、新札幌のシェラトンホテルで行う。
- II. 審議事項
1. 理事長諮問機関からの提案に関する件
(藤田副理事長)
- (1) 下記の件について検討している。
- ・日本応用心理学会の英文表記について
 - ・ホームページのリニューアル・運用について
 - ・メールニュースの新設・運用について
 - ・マイページの新設・運用について
 - ・「優秀大会発表賞規程」の作成について
 - ・「大会研修会A・B」講師謝金、ならびに「公開シンポジウム」講師謝金について
 - ・学会企画書籍『現代社会と応用心理学(仮称)』(全7巻)について
2. 若手研究者支援に関する件 (蓮花委員長)
- ・第79回大会から当日の直接支援は廃止することが承認された。非会員の補助は事前の申し込みのみとする。
 - ・非会員が当日参加した場合の大会参加費の支援を廃止することが承認された。
 - ・自主企画ワークショップの補助については、事前申し込みがあった場合に補助金2万円を当日受付で渡すことが承認された。
 - ・非会員の大会参加費については、減額したらどうかという提案があった。濱大会委員長から、第79回大会は大会関係経費が安く設定されているのでその決定に準じるとの回答があった。予約も当日も同額とする。院生、学部生、研究生を含むこととする。
 - ・学部生の参加費を別途に設定して安くしたらどうかという提案があった。第79回大会については、大会主催校の決定に一任することになった。今後新設するかどうかは継続審議とする。

- ・院生の発表費補助については、事前の申請を条件として例年どおり実施する。
 - ・学生会員（学部生）が大会で責任発表者になれるかどうかは継続審議とする。発表内容の質を維持することができるか、事前審査をするかどうかなどを今後の検討課題とする。
3. 「優秀大会発表賞」に関する件（藤田委員長）
- ・第78回大会の結果（資料）を提示した。次回の常任理事会までに検討するように依頼があった。昨年並み（初日と2日目を合計して4件程度）の授賞件数を予定している。
4. 東日本大震災に関わる研究者支援に関する件（森下委員長）
- (1) 3件の申請があり、検討の結果次のように決定した。
- ①研究課題（No. 01）…15万円
申請者：藤森立男氏（横浜国立大学）他11名
『被災児童の心のケアに関する実践活動』
- ②研究課題（No. 02）…10万円
申請者：村上裕子氏（東京海上日動火災メデイカルサービス(株)）他4名
『福島県相馬市における、人やコミュニティのつながりを回復する心理社会的支援』
- ③研究課題（No. 03）…10万円
申請者：田中真介氏（京都大学）他1名
『「京都の家」プロジェクトによる震災支援活動』
5. 新入会員審査および会員異動に関する件（浮谷事務局長）
- ・新入会員として一般会員11名、学生会員2名を審査した結果、一般会員10名と学生会員1名を承認した（敬称略）。
一般会員1名は入会申込書の記載内容不備で不承認とした。学生会員1名は申請を辞退したために取り消した。
一般会員：祥雲暁代、鈴木 恵、椎野雅代、大谷和大、浦上涼子、松本麻友子、谷口嘉男、亀岡聖朗、森 利久、久保山和彦
学生会員：山本育代
 - ・次回の常任理事会は、平成23年12月11日(日)に中京大学にて開催する予定である。

2011年度 第5回常任理事会議事録

日 時：2011年12月11日(日) 13時00分～15時00分
場 所：中京大学3号館別館5階
心理学部大学院研修室

出席者：森下高治理事長、藤田主一副理事長
浮谷秀一、川本利恵子、大坊郁夫、谷口泰富、内藤哲雄、藤森立男、向井希宏（以上9名）

欠席者：井上孝代、田中真介（委任状）、田之内厚三（委任状）、玉井 寛（委任状）、蓮花一己（委任状）、濱 保久（第79回大会委員長）

事務局：浮谷秀一（事務局長）

I. 報告事項

1. 理事長より（森下理事長）

- ・会場を提供していただいた向井先生、ならびに日曜日に開催した常任理事会参加へのお礼があった。
- ・11月12日の公開シンポジウム開催にあたって、会場を提供していただいた藤田先生をはじめ関係した皆様に対してお礼があった。
- ・機関誌第37巻第1号の刊行に対してお礼があった。

2. 委員会報告事項

1) 機関誌編集委員会（川本委員長）

- ・機関誌第37巻第1号を刊行し、次号に向けて準備している。

2) 企画委員会（代理：浮谷事務局長）

- ・公開シンポジウム「まさか！」の応用心理学—災害時はこうする—が開催されたこと、ならびに開催にあたって協力していただいた皆様へのお礼があった。

3) 広報委員会（藤森委員長）

- ・『応用心理学のクロスロード』第4号が完成している。12月19日に発送の予定である。来年度以降、『応用心理学のクロスロード』は年1号とする。紙ベースのニュースレターを発行するかについては、今後検討する。

4) 「応用心理士」認定審査委員会

（代理：浮谷委員）

- ・2011年度後期の申請者は、現在3名である。

これから認定作業を進める。

- 5) 国際交流委員会(内藤委員長)
 - ・特になし。
 - 6) 若手研究者支援委員会(代理:浮谷事務局長)
 - ・特になし
 - 7) 学会賞選考委員会(藤田委員長)
 - ・審議事項で検討をお願いします。
 - 8) 選挙管理委員会(浮谷委員長)
 - ・役員選挙の開票を11月23日に日本体育大学会議室で行った。結果は審議事項で報告する。
3. 2011年度第78回大会報告(内藤大会委員長)
 - ・詳細な報告書を作成中であるが、収支が黒字になったと報告を受けている。
 4. 2012年度第79回大会について(代理:浮谷事務局長)
 - ・特になし

II. 審議事項

1. 役員選挙開票結果に関する件(浮谷委員長)
 - ・資料に基づき結果の報告があった。
 - ・会員に対する選挙結果の通知はメールニュースで配信することになった。そのため、今後はメールニュースをホームページの会員専用入口からログインすることで見られるように修正する。
 2. 推薦理事9名の決定に関する件(森下理事長)
 - ・推薦理事を決定するにあたって、まず次のような基本的な方針を決めた。まず①現常任理事を推薦する ②当選者との同票者を推薦する ③分野を考慮して推薦する
 - ・基本方針に従って、岩崎祥一氏、内山伊知郎氏、角山剛氏、桐生正幸氏、小嶋正敏氏、濱保久氏、松下由美子氏、向井希宏氏、森田敏子氏、を決定した。また、次点として星 薫氏、次次点として大淵憲一氏を決定した。
 3. 「優秀大会発表賞」に関する件(藤田委員長)
 - ・資料に基づき2日間で昨年並みの4件から5件を決定したい旨の説明があった後、1日目4件、2日目1件という提案が出され、審議の結果提案どおりに決定した。
 - ・「優秀大会発表賞規程」を提案して審議することになった。
4. 理事長諮問機関からの提案に関する件(藤田副理事長)
 - ・「優秀大会発表賞規程」が提案され、再受賞の件、公表の仕方、施行日について検討した。その結果、平成23年12月11日から施行すること、第1著者は5年間再受賞できないことを明記することになった。またホームページの「会則・規程」欄に掲載することになった。
 - ・日本応用心理学会の英文表記については、今後も検討することになった。
 - ・ホームページのリニューアル・運用について、継続的にお願いすることになった。
 - ・メールニュースの運用については、原則として広報委員会が担当することになった。
 - ・マイページの運用が始まったことに関連して、名誉会員から簡単な冊子の会員名簿を作成できないかという提案について議論した結果、作成しないことになった。
 - ・「大会研修会A・B」講師謝金、ならびに「公開シンポジウム」講師謝金について、今後謝金を統一することが提案され、継続して検討することになった。
 - ・学会企画書籍『現代社会と応用心理学(仮称)』(全7巻)について、資料に基づき、企画趣旨、出版社として福村出版を検討していることが説明された。審議の結果、学会企画書籍出版の提案を承認した。学会企画書籍編集委員会を発足し、進めていくことも承認された。
 5. 新入会員審査および会員異動に関する件(浮谷事務局長)
 - ・一般会員として入会を申請した3名のうち2名を承認した。学生会員として申請された1名は、学生会員としての資格がないため承認されなかったが、一般会員として申請し直した場合は承認することになった。(敬称略)
 - 一般会員: 徳吉陽河、横山真也
 - ・次回の常任理事会は、平成24年3月4日(日)に日本体育大学にて開催する予定である。

日本応用心理学会 2010 年度決算書

(2010 年 4 月 1 日～2011 年 3 月 31 日)

収 入			支 出		
項 目	決算額	予算額	項 目	決算額	予算額
会費	6,105,000	5,844,000	第 77 回大会補助費	700,000	700,000
過年度分* (100 名)	591,000	528,000	学会賞	30,000	100,000
*学生会員、賛助会員 1 名を含む			心理学諸学会連合会費	60,000	60,000
本年度分** (921 名)	5,514,000	5,316,000	シンポジウム・講演費謝金	30,000	2 00,000
**学生会員 4 名含む			研修会講師謝金	60,000	60,000
賛助会費 (過年度分を含む)	30,000	40,000	国際交流費	736,457	1,000,000
「応用心理士」関係	330,000	400,000	英文特集号関係諸費	0	200,000
審査料	90,000	100,000	「応用心理士」関係経費	48,982	200,000
認定料	240,000	300,000	委員会活動費	740,314	1,450,000
機関誌売り上げ	364,660	200,000	機関誌編集委員会	182,403	500,000
雑収入 (著作権使用料等)	56,973	100,000	企画委員会	257,528	300,000
前年度繰越金	771,297	771,297	広報委員会	140,378	150,000
名簿作成積立金取崩金	1,000,000	—	国際交流委員会	29,640	100,000
特別企画積立金取崩	0	3,000,000	若手研究者支援委員会	0	50,000
			学会賞選考委員会	101,725	100,000
			倫理委員会	0	50,000
			学会活性化プロジェクト チーム活動費	28,640	200,000
			印刷費	2,215,518	3,500,000
			機関誌	1,238,055	2,500,000
			広報関係	900,000	900,000
			その他	77,463	100,000
			通信費	580,997	550,000
			機関誌郵送費	151,095	200,000
			広報関係郵送費	246,892	200,000
			その他	183,010	150,000
			常任理事交通費	894,040	950,000
			事務局運営費	399,730	300,000
			事務局委託費	719,271	800,000
			名簿作成積立金	0	100,000
			特別企画積立金	0	0
			予備費 (名簿未払い分)	258,043	185,297
			次年度繰越金	1,184,578	0
合 計	8,657,930	10,355,297	合 計	8,657,930	10,355,297

《別途会計》

1. 名簿作成積立金

2009 年度繰越金	1,000,000
2010 年度取崩 (清算)	—1,000,000
	0

2. 特別企画積立金

2009 年度繰越金	3,000,000
2010 年度取崩金	0
	3,000,000

3. 若手育成基金

2009 年度繰越金	1,855,506
2010 年度支援金	—122,000
	1,733,506

以上の通り相違ありません。

平成 23 年 8 月 26 日
平成 23 年 9 月 6 日監事 高橋 良博 ㊟
監事 手島 茂樹 ㊟

日本応用心理学会 2011 年度予算案

(2011 年 4 月 1 日～2012 年 3 月 31 日)

収 入			支 出		
項 目	予算額	前年度決算額	項 目	予算額	前年度決算額
会費	6,210,000	6,105,000	第 78 回大会補助費	700,000	700,000
過年度分	600,000	591,000	学会賞	0	30,000
本年度分	5,610,000	5,514,000	心理学諸学会連合会費	60,000	60,000
			シンポジウム・講演費謝金	200,000	30,000
			研修会講師謝金	60,000	60,000
賛助会費	30,000	30,000	国際交流費	100,000	736,457
			英文特集号関係諸費	0	0
「応用心理士」関係	400,000	330,000	「応用心理士」関係経費	50,000	48,982
審査料	100,000	90,000			
認定料	300,000	240,000	委員会活動費	950,000	740,314
その他	0	0			
機関誌売り上げ	300,000	364,660	機関誌編集委員会	300,000	182,403
雑収入	50,000	56,973	企画委員会	300,000	257,528
			広報委員会	150,000	140,378
前年度繰越金	1,184,578	771,297	国際交流委員会	50,000	29,640
			若手研究者支援委員会	50,000	0
名簿作成積立金取崩金	—	1,000,000	学会賞選考委員会	50,000	101,725
			倫理委員会	50,000	0
特別企画積立金取崩金	500,000	—	学会活性化プロジェクトチーム活動費	—	28,640
			印刷費	2,500,000	2,215,518
			機関誌	1,500,000	1,238,055
			広報関係	900,000	900,000
			その他	100,000	77,463
			通信費	550,000	580,997
			機関誌郵送費	150,000	151,095
			広報関係郵送費	250,000	246,892
			その他	150,000	183,010
			常任理事交通費	900,000	894,040
			事務局運営費	200,000	399,730
			事務局委託費	800,000	719,271
			英文特集号積立金	500,000	—
			選挙関連費用	500,000	—
			名簿作成積立金	—	0
			特別企画積立金	0	0
			予備費	604,578	258,043
			次年度繰越金	—	1,184,578
小 計	8,674,578	8,657,930	小 計	8,674,578	8,657,930

《別途会計》

1. 特別企画積立金

2010 年度繰越金	3,000,000
2011 年度取崩金	—500,000
	2,500,000

2. 若手育成基金

2010 年度繰越金	1,733,506
2011 年度支援金	—300,000
	1,433,506

3. 英文特集号作成積立金

2011 年度積立金	500,000
	500,000

日本応用心理学会第 77 回大会決算報告書

収入			支出	
摘要		金額 (円)	摘要	金額 (円)
大会参加費 (内訳)		1,765,000	大会プログラム論文集等印刷費	940,905
正会員	予約 5,000 153	765,000	ポスター・チラシ印刷費	78,225
正会員	当日 6,000 43	258,000		
正会員院生	予約 2,000 52	104,000		
正会員院生	当日 3,000 7	21,000		459,185
非会員	予約 6,000 52	312,000	ホームページ作成・管理費	50,000
非会員	当日 7,000 20	140,000		
非会員院生	予約 3,000 8	24,000	会場費	369,404
非会員院生	当日 3,500 36	126,000		
プレシンポ参加者	5,000 3	15,000		
発表費 (内訳)		916,000	懇親会費	625,255
正会員・名誉	5,000 119	595,000		
正会員院生	3,000 43	129,000	講師・企画参加謝礼	1,064,180
非会員院生	10,000 16	160,000	当日アルバイト謝礼	353,180
非会員院生	8,000 4	32,000		
自主ワークショップ (内訳)		38,000	準備委員会運営費	49,964
正会員	5,000 7	35,000	理事懇親会	144,000
院生	3,000 1	3,000	当日昼食代	227,920
論文集代 (内訳)		301,000	消耗品・文具・飲み物	151,730
会員	予約 5,000 23	115,000	コピー代	192,023
非会員	予約 6,000 6	36,000	遠隔地交通費補助	17,000
	当日 6,000 25	150,000		
プログラム代	1,000 1	1,000	大会事務局員謝礼	76,239
懇親会費 (内訳)		618,000		
正会員	予約 5,000 40	200,000		
非会員	予約 7,000 14	98,000		
	当日 7,000 28	196,000		
院生	予約 3,000 8	24,000		
院生	当日 4,000 23	92,000		
同伴者	4,000 2	8,000		
研修会費 (内訳)		38,000		
正会員	予約 500 49	24,500		
正会員	当日 1,000 12	12,000		
非会員	当日 1,500 1	1,500		
広告費・機器書籍展示費		275,000		
学会本部補助		700,000		
理事会本部補助		100,000		
大会プレシンポジウム		100,000		
大会ポストシンポジウム		100,000		
論文集買い取り(大会本部)		180,000		
収入合計		5,132,000	支出合計	5,132,000

以上の通り相違ありません。

平成 23 年 3 月 12 日

大会委員長

田中真介 ㊞